

大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行＝財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06 (6876) 8800 FAX06 (6876) 8686 http://www.iiclo.or.jp

民族とその文化に 深い関心を。

アジアにおける資料情報研究センターとして

一九九三年に京都で開催された環太平洋児童文学会議において、思いもかけず基調講演をする機会が私に与えられ、「丸くなった地球の明日(あした)」という問題提起をしました。歴史的な東西の円環状の交流が、第二次世界大戦を経て南北間の交流が加わり、地球が実感として球状になります。今やユーラシア大陸と南北アメリカ大陸、アフリカ大陸とオセアニアの海洋を加えた文字通りの地球的な視野が、二十一世紀においては欠かせません。やがては宇宙が視野にはいつてくるでしょう。

子どもの文化や文学そして子ども本の出版も、こうした視点に立つとき、国家よりも民族とその文化、民族言語と文字の文化にもっと深い関心をもつ必要があります。そして子ども本を考えると、社会・経済・農業・工業の格差を見据え、自然環境とともに教育や情報・映像の現状と影響とをしっかりと認識した先見性と分析力をもたねばなりません。

戦後わが国は欧米諸国の書籍の翻訳出版で、児童文学や絵本の多様な需要を経験して飛躍的な成長を遂げました。私自身はそれとともに敗戦の反省から、日本人のアジア諸民族や文化に対する無知や認識の欠如を痛感し、非力ながらアジアの諸民族の昔話や創作や絵本の紹介に努めました。

特にユネスコアジア文化センターが主導した、アジアの開発途上国間の子ども対象の共通読み物や共同出版計画にかかわることをとおして、貴重な学びを重ねるとともに、現状調査や視察の機会を与えられ、アジア各民族の社



財団法人大阪国際児童文学館 理事長 松居直

会問題や多彩な伝統文化の数々をすることができました。とりわけ少数民族の歴史や文化に強い関心を寄せるきっかけが与えられ、多文化社会への眼を開かせられたことは、二十一世紀の子どもの本の出版と交流を考える上では不可避の問題意識に目覚めることができま

また開発途上国の出版を支援するのに最大の課題は、出版にかかわる専門的な人材の育成と、何よりも識字教育による読者層の形成、そして製紙産業と流通問題の解決です。

大阪国際児童文学館では、二〇〇四年度より、国際交流事業の核をアジアに据え、アジアの児童文学の振興をめざすとともに、世界にアジアの児童文学の情報を伝える役目を果たすこと様々な事業を行っています。今後のアジア諸国との交流は、こうした問題を踏まえ、新しい発想と理念に基づいた事業を推進していく必要があると考えています。

06年7月25日、大阪キワニスクラブより子ども本の本による国際交流を目的として、50万円が芦原義倫会長から当館の向川幹雄館長に贈呈されました。

大阪キワニスクラブからは、1900年から寄付をいたしたき、これまで主にアジアの国々で出版された約1万2000冊の子どもの本を収集することができました。これらは「キワニス文庫」として閲覧室に部

ZOOM UP キワニス文庫

子どもの本による国際交流をめざし

切に保管されています。また、こども室にも「キワニス文庫」のコーナーを設け、1冊ずつ要約や全訳を付けて貸出もしています。

06年度は、近年交流が盛んになっているモンゴルと、急成長を遂げている中国の絵本を中心に収集。07年4月15日には「子ども読書の日記念おはなしバスケット」アジアのおはなし」を行い、モンゴルの留学生ジミン「コアさん」に絵本「親指英雄」を読んでいただきました。

中国語圏の絵本と日本の絵本 1. 台湾

互いの絵本の魅力を知るのみでなく、
絵本そのものの魅力を考える。



●コーディネーター：土居安子 (当館主任専門員)

台湾、日本で人気の絵本作家が、自作について語り合うことによって、それぞれの国・地域の絵本を知るのみでなく、絵本そのものの魅力についても考える機会になりました。参加者からは、「絵本に国境なし」と感じた「アジアの絵本には地域の文化を伝えるものと、国際的に通じる普遍性のあるものがあると感じた」「一人のキャラクターが絶妙だった」「かなり準備された企画だと感じた」など、好評をいただきました(参加者15名)。

また、このシンポジウムに先立って、ブレ研究会「台湾絵本の現在」頼馬氏の作品を中心に「」を07年1月27日に行いました(参加者44名)。

②報告集+論文集の作成

「絵本や「台湾」に対する理解を深めると同時に、同分野の研究促進を旨とし、「台湾の絵本」というテーマで編集した論文(5本)およびシンポジウム報告集「台湾と日本の絵本」を、日本語・中国語・英語の3カ国語で出版しました。論文集の内容詳細については、出版物の項をご参照ください。

③中国語圏の絵本の展示・貸出用絵本セット作成

台湾絵本の魅力を伝えるため、いくつかのテーマに沿った台湾の絵本85冊、中国の絵本27冊を選出し、解説とともに展示し、展示リストを作成しました。それらは貸出絵本セットとして、学校、公共図書館、ボランティア団体等に無料で貸し出します。展示企画(中由美子)中国語児童文学翻訳家

④子ども向きおはなし会等の開催

07年3月、こども室においてボランティアとともに中国語圏のおはなし会を行いました。

(万博記念公園賑わい創出支援事業)

資料

異文化教育の教材や小展示にアジアの絵本貸出セット

05年度より、国際交流事業の一環として、アジアの絵本セットを作成し、団体貸出を開始しました。最新絵本の中から厳選した作品を、翻訳がある場合には日本語もあわせて無料で貸出しています。現在、韓国絵本Aセット(76冊)・Bセット(103冊)、中国語圏の絵本セット(112冊)を用意しています。小中・高等学校での異文化教育の教材や、図書館での展示にご利用ください。

企画展示と公共図書館用展示パック

韓国絵本の展示を、05年度の国際事業「韓国と日本の絵本」の一つとして行いました。終了後は貸出用セットとして学校・公共図書館等に貸出しています。「マザーグース」展では藤野紀男・マザーグース学会会長に講演を、「英雄豪傑」展では香賀我部秀幸・特別研究員

にギャラリー・トークを行っていただきました。

◆「韓国絵本の今。」／4月1日～4月27日

◆「フランダースの犬」ネロとパトラッシュのさまざまな姿／4月29日～7月30日(佐藤宗子・特別研究員監修)

◆「イギリス生まれの伝承童謡マザーグース」／8月1日～10月30日(藤野紀男・マザーグース学会会長監修)

◆「英雄豪傑」明治・大正期の絵本絵雑誌に描かれた歴史英雄像／11月2日～2月13日(香賀我部秀幸・特別研究員監修)

◆「ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品展」／3月1日～3月30日

また、企画展示を元に、展示パックを作成しています。06年度は「フランダースの犬」ネロとパトラッシュのさまざまな姿」とイギリス生まれの伝承童謡「マザーグース」のバックが新たに加わりました。大阪府域の公共図書館に無料で貸出しています。

北村武子記念児童文学振興基金事業
北村武子遺稿集『エミおばさんの雑記帳』出版

北村武子記念児童文学振興基金事業として、北村武子遺稿集『エミおばさんの雑記帳』を編集・刊行しました(発売・探究社)。



おばさんの雑記帳」を編集・刊行しました(発売・探究社)。

童話作家の北村武子さんは、1996年に逝去。その遺産を当財団にご遺贈いただきました。「北村武子記念児童文学振興基金」として管理しています。故人の尊い気持ちに感謝し、永く記憶にとどめるため、遺稿編集委員会(代表・中川正文名誉館長)を組織し、編集にあたってきたものです。



「英雄豪傑」明治・大正期の絵本絵雑誌に描かれた歴史英雄像」展

公共機関等に当館資料を展示用に特別貸出

公共機関等の展示などに、当館資料全33件1507点を貸出しました。

◆「あゝころ、こんな子どもの本があった」展／大阪歴史博物館／6月～9月
◆「激しく創った!!」田島征彦と田島征三の半世紀展／高知県立美術館・新潟県新潟市美術館／7月～07年4月
◆「じくこのそつべえ」原画ほか全26点
◆「真面の歩み」展／真面文化交流センター／11月～12月／「りぼん」ほか全13点

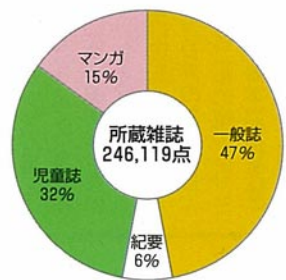
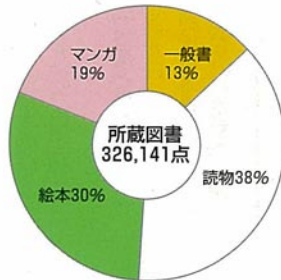
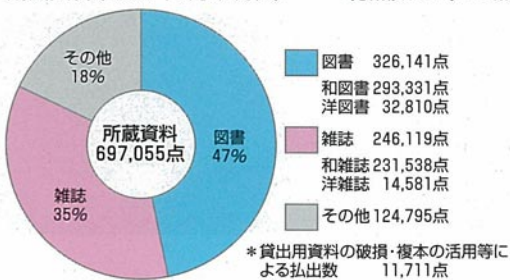
◆企画展「おまけ大行進」メーカーVSコレクター」／大阪市立住まいのミュージアム／07年1月～4月／カバヤ児童文庫「シラレラひめ」ほか全50点
◆テーマ展示「ふるさと真面」／真面市立西南図書館／07年3月～4月／「少年画報」ほか全8点

That's IICLO

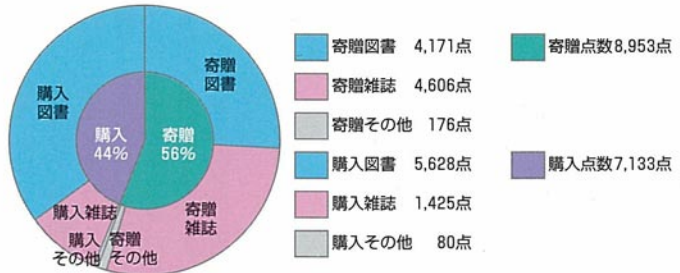
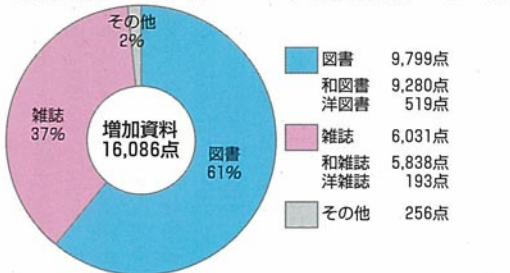
所蔵資料統計2006年度

所蔵資料(2007年3月末現在)

総点数697,055点



増加資料(2006年4月～2007年3月)総点数 16,086点



研究

新図書検索システム開発研究

多くの方に利用いただいている「本の海大冒険」(子ども向け図書検索システム)の成果と課題をふまえた新たな読書活動支援システム「ほんナビきっず」を開発いたしました。このシステムでは、公共図書館の所蔵検索とのリンク対応、物語キーワード体系表の低学年向きの構築、読後感などを検索軸に採用した新たなナビゲーションシステムの開発を骨子としています。アドレスは、<http://www.honnavi.jp/>です。(この研究は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、(株)富士通東北システムとの共同研究です。)

特別研究員制度

05年度より、外部の研究者に当館の資料を活用して研究を深めていただく特別研究員制度を設けています。新たなネットワークを築くとともに、当館の展示の企画運営、講演会の開催、紀要への論文掲載等での研究成果を発表していただいています。06年度の特別研究員は次の2名の方です。

- 香曾我部秀幸 神戸大学教育学部非常勤講師／研究テーマ：大正期の絵本・絵雑誌における視覚表現の変遷／展示「英雄豪傑図一明治・大正期の絵本雑誌に描かれた歴史英雄像」展(11月～07年2月)
- 浅岡靖央 日本児童教育専門学校専任講師／研究テーマ：「日本少年国民文化協会」の研究／論文掲載：当館紀要第20号「児童文化から少年国民文化へ」戦中期児童文化政策に関わる指摘と論点

1. 中国語圏児童文学の中における「台湾絵本」—歴史的なうねりの中で—成賢朋子(大阪教育大学助教授)

2. 物語を聴き・描き・編集し・語る—私



出版物

◆「国際児童文学館紀要第20号」

遠藤純「少年」(時事新報社)細目(二)「浅岡靖央「児童文化から少年国民文化へ」戦中期児童文化政策に関わる指摘と論点」

小松聡子「明治期主要少年雑誌研究」ロジエクトの報告

土居安子「大阪国際児童文学館における物語体験の可能性」(二)

◆「論文集 台湾の絵本」(07年3月31日発行)編集長 三宅興子

日・中英の3カ国語による、台湾の絵本に関する論文集と、シンポジウム報告集の2本立てで構成しています。(台湾と日本の絵本)の項参照)

〈目次〉

- 中国語圏児童文学の中における「台湾絵本」—歴史的なうねりの中で—成賢朋子(大阪教育大学助教授)
- 物語を聴き・描き・編集し・語る—私

古書紹介

「少年クラブ」



明治40年11月3日／少年クラブ社(京都)発行／発行兼編集：西村九郎／定価6銭／19×26センチ／18ページ

の絵本体験—曹俊彦(台湾絵本作家、編集者)

3. 台湾における「ジミー現象」／游楓芸(台東大学児童文学研究所助教授)

4. 台湾における日本の子ども絵本の受容概要とその意義・台湾絵本の今—「圖書」時代から「繪本」時代へ—張桂娥(東京学芸大学大学院博士課程)

5. 頼馬「早起的三天論—その身近な空想世界と読者の共感を探る—」／鈴木穂波(当館専門員)

明治期主要児童雑誌 内容目次データベース

貴重な明治期の児童雑誌を研究するため、館外の研究者の協力を得て、プロジェクトを立ち上げました。06年度は科学研究費助成金を受け、「少年世界」の内容目次データベースを作成し、公開しました。当館のホームページから検索できます。

共同研究者 山山兆子(梅花女子大学教授)／藤本芳則(大谷大学短期大学部教授)／酒井晶代(愛知淑徳大学教授)／目黒強(神戸大学講師)

振興

第4回子ども本フェスティバル

06年10月28日から29日まで、大阪ビジネスパークツイン21において、「第4回子ども本フェスティバル」が開催されました。

このイベントは、活字文化推進会議が主催し、当館も毎年、「本の海大冒険」などの図書検索システムを出展しています。



今回は、松下電器産業(株)の協力をいただき、「出会うてみよう!」(アソビの絵本)をテーマに、アジアの絵本を紹介するコーナーを設け、絵本に関するクイズなどを行ったほか、筑波大学、(株)富士通東北システムと共同開発した子ども向け図書ナビゲーションシステムを出展しました。イベントには、2日間で1万6000名の方に来場いただきました。

「少年クラブ」といえば、講談社のものが有名だが、同じ名を冠する雑誌は数多ある。このたび入手したのは明治40年に京都で刊行の「少年クラブ」創刊号。

本誌が創刊された明治40年は、厳谷小波や久留島武彦によって京都お伽倶楽部が設立された年である。前年に東京で設立されたお伽倶楽部は、「学校と家庭の間に立ちて子供の為に社会教育の機関となり、お伽講演会、音楽会、お伽芝居などを催し、兼て良き娯楽の場所を備へん事を目的」(雑誌)

この動きはその後全国各地に広がり、京都では翌40年4月に発会、その様子は「京都日出新聞」に詳しく報じられている。本誌の創刊は、当時の児童文化運動の高まりを示すものといえよう。内容は、京都らしい「お伽狂言」のほか、歴史、講義、英語、園芸、世界など、当時既に出回っていた他誌を意識したものとなっている。

ニッサン童話と絵本のグランプリ

日産自動車(株)の協賛を得て、当財団が主催している「ニッサン童話と絵本のグランプリ」は、童話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登竜門ともなっており高い評価を得ています。

第23回の応募総数は、童話2108編、絵本553編で、厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、3月11日に当館講堂で表彰式が行われました。大賞受賞作品は、12月にB1出版から出版されます。

- *童話の部
 - 【大賞】「ホタルの川」大槻瞳(神奈川県)
 - 【優秀賞】「雪ダルマの雪がふってくる」小島洋子(奈良県)
 - 【このごろの冷蔵庫】「よしよしみ敬子(大阪府)」／藤田さんのおにぎり「長崎(ミソ)」(北海道)
- *絵本の部
 - 【大賞】「スイカほつず」富田真矢(福岡県)
 - 【優秀賞】「カラスはみた」藤岡和佳(三重県)
 - 【レビテ・オーロラ】高橋キヨウシロウ(東京都)
 - 【コートダジュールの虫歯】仙田まどか(京都府)

団体利用プログラム

より多くの子どもが読書の楽しさを味わえるように、当館の専門職員とボランティアが協働し、研究や実践の成果を生かしたプログラムを無料で行っています(事前予約が必要です)。

これは、保育所・幼稚園・小中学校を対象にした、素話・絵本・ビデオ本の紹介・ワークショップなど、子どもたちが本や物語の世界にふれるプログラムです。06年度は、37団体、約2500人の子どもの参加がありました。

大阪府子ども読書活動推進事業

大阪府子ども読書活動推進連絡協議会(※)では、文部科学省の助成を受けて以下の事業を行いました。

*「豊かな子どもの読書活動をめざして 平成18年度報告書」の発行(07年3月)

*講演会「詩を楽しむことばを楽しむ」
07年2月15日/講師:島田陽子(詩人)
/あわせて平成18年度子ども読書活動報告会と交流会の開催/ホテルアウイナ大坂

*河内長野市におけるモデル事業「乳幼児と絵本」講座「子どもと楽しむ時間づくり」3回開催/河内長野市立図書館

*寝屋川市におけるモデル事業「シンポジウム」読書のよさこびを子どもたちに」07年2月7日/基調講演講師:松野正子(児童文学作家・翻訳家)他/寝屋川市立公民館

あわせて寝屋川市内の小中学生を対象にアンケート調査を実施
*オーサービジット/講師:島田陽子(詩人)/羽曳野市立西浦東小学校:当館

※構成員:大阪府教育委員会/大阪市教育委員会/大阪府立中央図書館/大阪府

阪市立中央図書館/大阪府教育センター/大阪公共図書館協会/大阪府学校図書館協議会/大阪府学校図書館協議会/学校図書館を考える会 近畿/大阪府子ども文庫連絡会/吹田市立中央図書館/枚方市立中央図書館/事務局:財団法人大阪国際児童文学館

講座・講演会

*「紹介と解説2005年に出版された子どもの本」講師:西村寿雄(科学読物研究会)・右田ユミ(箕面市立豊川南小学校司書)・当館職員/場所:当館講堂/4月30日~5月1日/参加者70名

*児童文学講演会「子どものとも50周年」子どものとも「あゆみ」主催:大阪国際児童文学館を育てる会/共催:当館/講師:松居直(福首館書店相談役・当財団理事長)/場所:当館講堂/6月4日/参加者161名



国際講演会「東欧の絵本-BIBの現場から」

*国際講演会「東欧の絵本-BIBの現場から」講師:バルバラ・プラトヴァー(BIB事務局長・美術史研究者)・通訳:石川晴子(関西大学講師)/場

所:当館セミナー室/6月26日/参加者25名

*おはなしボランティア支援講座「世界の昔話の魅力をさぐる」(3回講座)共催:日本学術振興会・人文社会学振興プロジェクト研究事業/場所:当館セミナー室/参加者延べ105名 ●第1回「スペイン語圏の昔話」/講師:三原幸久(関西外国語大学名誉教授)/6月27日 ●第2回「グリム・メルヒエンの森」/講師:大野寿子(愛知教育大学講師)/7月4日 ●第3回「昔話としての『桃太郎』」/講師:内ヶ崎有里子(岡崎女子短期大学助教授)・齊藤純(天理大学教授)/11月18日

*児童文学講演会「マザーグースの不思議な世界」共催:マザーグース学会/後援:日本イギリス児童文学会/講師:藤野紀男(マザーグース学会会長)・日本イギリス児童文学会会長・十文字学園女子大学教授/場所:当館講堂/9月17日/参加者70名

閲覧室

入室者数3576名/閲覧冊数4万0611点/複写枚数4万0725枚/レファレンス件数943件

これまでマイクロフィルムのみ閲覧だった「コドモノクニ」少年世界」について、印刷複製物を作成し、より閲覧しやすくなりました。新刊コーナーでは、過去1年間に発行された新刊の児童図書および関連図書を開架し、利用に供しました。

子ども室

子ども室行事の全回数は52回/参加者は2310名でした。おはなし会は、ボランティアとの協働で18回行い、テーマは「鳥」「魔法」「動物」「森」などでした。参加ボランティアを対象に、4回のスキルアップ講座と、事前研修を行いました。

「きつねのホイティ」を上演



人形劇 in 彩都

大阪モノレール彩都線の彩都西駅までの延伸を記念して、07年1月27日に、CUBE3110 彩都インフォオミユニシアムで、当館ボランティアの人形劇サークル「はれつ」による人形劇「きつねのホイティ」スリランカのおはなし」を上演しました(共催:彩都スタイルクラブ、協力:彩都建設推進協議会)。当日の参加者は子ども90名、大人50名で、会場いっぱいの大盛況でした。同時に「絵本コーナー」を併設し、当館から持参した50冊の絵本を楽しんでもらいました。参加者には阪急電鉄(株)の協力を得て作成したクリアファイルを記念品として配布しました。彩都西駅から当館最寄りの公園東口駅まではモノレールで3駅です。これを機会により多くの方に利用していただけることを願っています。

した。また他に、物語体験ワークショップ(4回)「アニメーションを作ろう」(講師:小谷佳津志)ことばあそび大会「街頭紙芝居」(出演:三田会)「おはなしクイズに挑戦」(カルタとり大会)「大型ビデオ上映会」等を実施しました。加えて次の行事も行いました。

*夢の池劇場 ●5月3日「バオバブの木の下で」西アフリカおはなし村から「出演:江口久(国立民族学博物館名誉教授、河辺知美・シコシ(太鼓演奏家) ●5月4日「世界のアニメーション」(くいしんぼうのすずめ)他アット・アームズ協力、「ごきげんなライオン」ヤマハ・ミュージック・メディア協力) ●5月5日

①ワークショップ「ようこそ宮沢賢治の世界へ」講師:遠藤純(当館主任専門員) ②人形劇「銀河鉄道の夜」公演:人形劇団クララルテ(子どもゆめ基金助成事業)

*作家を招いた行事 ●5月20日「ド

編集後記

本誌では、昨年度1年間の活動報告を中心に、成果を生かしたサービスも紹介しています。その他今年度の活動や、当館発行物の購入等については、ホームページhttp://www.iiclo.or.jp/で随時紹介していますので、ぜひご利用ください。

なお、本文中の敬称については、すべて略させていただきます。ご了承ください。また、当館へのご意見・ご要望をお寄せください。